

前立腺癌の重粒子線治療を受けた患者さんへ

量子科学技術研究開発機構では、前立腺癌に対して安全、有効、短期間での重粒子線治療法を確立してきました。放射線治療では、1回の線量と照射回数を変更すると、癌や正常な臓器に対する効果や影響が変わります。そこで、照射期間を短縮する場合には、生物モデルを用いて行い効果を事前に推定します。しかし、従来のモデルでは、1回あたりの線量が極端に高くなった場合に当てはまらなくなる可能性が指摘されており、今後更なる短期照射を目指すためには、このモデルが有効に機能する新たなパラメータ開発が必要です。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] 前立腺腫瘍のLQモデルパラメータの導出に関する研究

[実施期間] 許可日～2025年3月31日

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構 QST病院

[研究責任者] 石川 仁

[協力/共同研究機関] 大阪重粒子線センター（研究代表者：金井 達明）

大阪大学大学院医学系研究科（施設代表者：八木 雅史）

（外部機関と情報共有を行いますが、個人を識別できる情報が提供されることはありません。）

[研究の目的] 今後、さらなる治療期間の短期化を目指すために、これまでの治療成績から効果を予測できる独自の生物効果予測モデルを確立することです。このような研究はX線治療でも行われていますが、重粒子線治療は放射線治療の性質がX線と異なるため、独自に開発する必要があります。

[研究の方法・データの利用方法]

●対象となる方々

1995年4月1日～2003年11月30日に前立腺癌の重粒子線治療を受けた方

●利用する情報及び利用方法

2021年11月までに得られた対象患者さんのデータを情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計します。新たな質問や検査はありません。

[個人情報の取り扱い]

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、2022年3月31日までに下記窓口にお申し出くださるようお願い致します。この期間を過ぎると個人を識別できない情報は取り除けなくなる可能性があります。そのような場合であっても、患者さんの個人情報が公表されることはありません。また、データの使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

QST病院 石川 仁 電話：043-206-3306（平日 8:30～17:00）

